



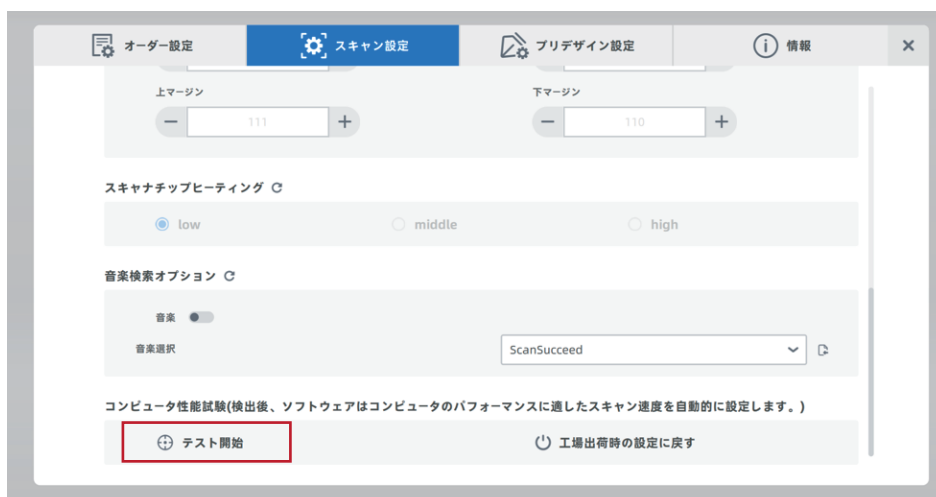
Update note

G-Oral Scan2/Aoralscan3 - V3304 release note

＊ G-Oral Scan2/Aoralscan3 のみ対応 (G-Oral Scan/Aoralscan2 非対応)

① PCのパフォーマンスチェック

使用しているPCの機能、パフォーマンスに応じてスキャン速度が自動設定されるようになった
画面表示の処理速度等のパフォーマンスが低い場合、それに合わせてスキャン
→ 画面表示の速度も更新されるため、よりスムーズなスキャンが可能になった

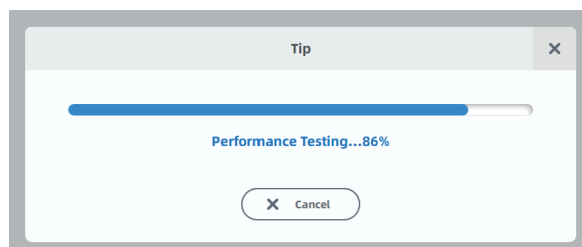


パフォーマンス診断の例

性能不足の例



最適例



テスト中



テスト完了

② Nvidia RTX40 シリーズ対応について

V3304 では、新たに

- RTX4060
- RTX4070
- RTX4080

以上の型番が製造元での試験を終え、使用可能になった

＊ RTX4050 に関しては、前述した PC に対するパフォーマンス、スキャンスピードへの負担が大きいため、推奨していない

③ スキャンボディのマッチング

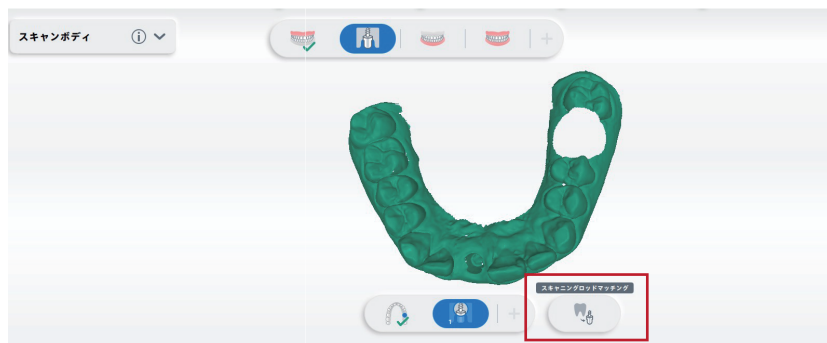
各社ライブラリーのインプラントシステムに合わせたスキャンボディを
スキャン画面上でマッチングすることが可能になった

ライブラリー保存先の指定はないが、クラウド上へのダウンロードはインターネット環境に依存するため、推奨していない

＊Geo ライブラリー以外のライブラリーについては各メーカー様へ問い合わせる



スキャンボディのマッチング (流れ)



スキャンボディのスキャンで穴を開けた後、
「スキャンロッドマッチング」をクリック

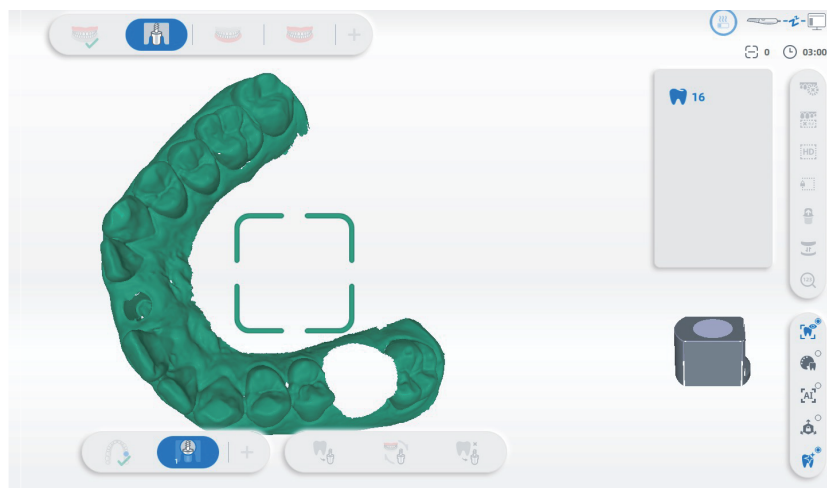


赤丸のフォルダー選択から、
自身が保存しているライブラリーを選択し、
ソフトウェアへ持っていく

カンパニー : メーカー名

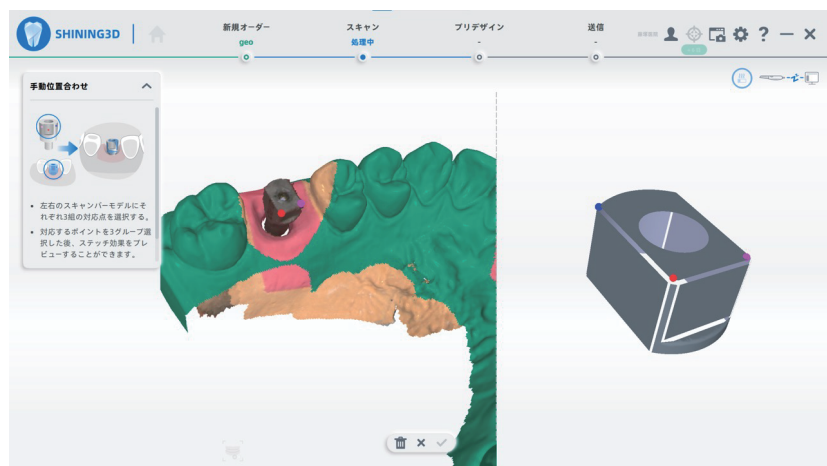
インプラント : 使用するシステム名またはコード

*タイプ、アタッチメントの詳細については
各メーカー様へ問い合わせる



システムを選択すると右下に STL が出現する

スキャンを進めてデータが集まると
自動でマッチングが開始する



手動で3点によるマッチングも可能だが、
あくまで手動での位置合わせのため、
自動マッチングの方が精度は優れる

④ TEC (仮歯) の製作について

オーダーの診断模型スキャンで「はい」を選択すれば、プリデザイン時に「CreTemp」から TEC 製作へ進める

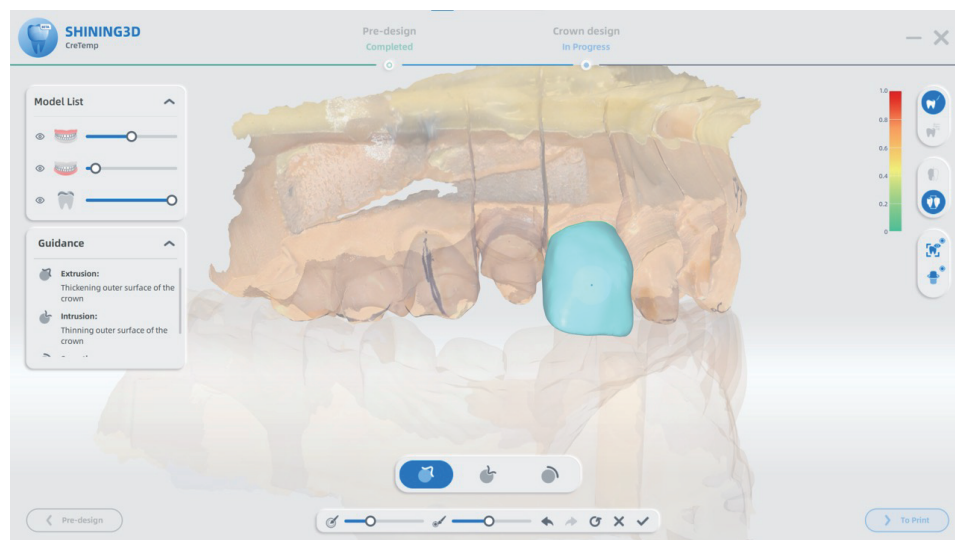
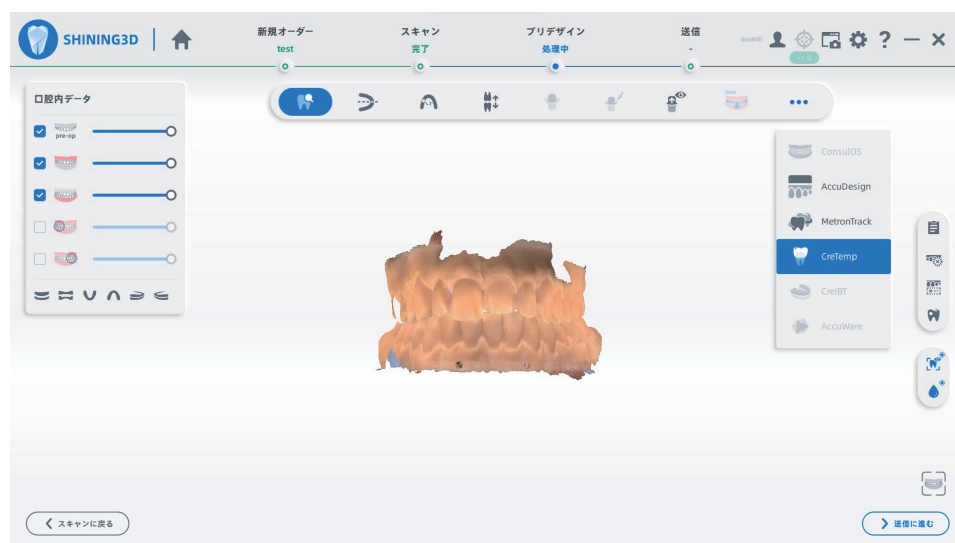
マージンラインの設定

挿入方向

フリーフォーム

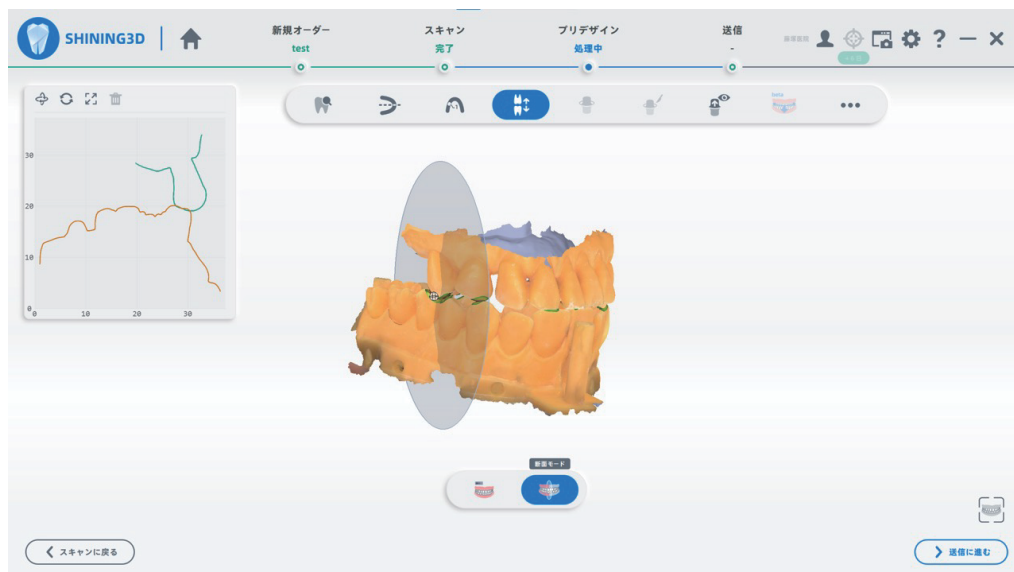
各作業をガイダンスに沿って進めてる

デザイン後は AccuWare (プリント用ソフト) に進んでそのままプリントが可能 ＊ STL としての排出は不可能



⑤ 咬合断面図の確認

プリデザイン上で断面図として確認が可能になった



⑥ バイトスキャン精度向上

バイトスキャン時に、「噛み合わせの最適化」というボタンが追加された
マッチングのズレがある場合に有効

